



日本イェイツ協会会報 第81号

2022年3月

1. 2022年度日本エズラ・パウンド協会との合同大会の日程予定
2. Zoomによるオンライン大会 ご報告
3. スライゴの Yeats Society の財政危機への本学会の対応
4. 訃報
5. その他 お知らせ
6. 会費納入のお願い

1. 2022年度日本エズラ・パウンド協会との合同大会

2021年11/13, 14に予定されておりました日本エズラ・パウンド協会との合同大会は延期され、**2022年11/12, 13(土・日)**になりました。対面であれば獨協大学が開催校となりますが、開催方法につきましては状況を見つつ決定し、ご連絡いたします。

2. 2021年度第57回日本イェイツ協会大会・総会オンライン開催 ご報告

11月14日(日)

10:00-10:15 挨拶 佐藤容子

駐日アイルランド大使ポール・カヴァナ

10:15-10:45 研究発表1 司会 萩原眞一

伊東裕起 「亡霊を呼び起こしたものは何か — 『骨の夢』における若者の祈りについて—」

10:45-11:15 研究発表2 司会 岩田美喜

石川隆士 「風の詩学 — 斬首における不在と表象のアポリア—」

11:25-12:30 特別講演 司会 佐藤容子

大野光子 「イェイツを追いかけて — アイルランド文学研究と国際交流—」

12:30-13:30 総会+昼食 司会 伊達直之

13:30-16:00 シンポジウム 「イェイツ詩の価値を問い直す — 詩人と続く世代との対話を手がかりに—」

司会・講師 西谷茉莉子

講師 中尾まさみ

講師 柿原妙子

講師 山内正太郎

16:00 閉会の辞 事務局長 池田寛子

オンラインで活発な質疑応答が交わされ、刺激的な対話の場となりました。

ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

アイルランド大使 ポール・カヴァナ氏 からのビデオメッセージと 'The Second Coming' の朗読もありました。

オンラインであったため、海外で在外研究中の先生からも時差を乗り越え部分的にご参加いただくことができました。

シンポジウムにご登壇いただいた山内先生から次のようなコメントをいただきました。

私は日本イェイツ協会でのシンポジウムで「イェイツ詩と大衆文化」というテーマで発表を行った。興味深い、という反応をいくつかいただいたものの、私よりも世代が上の研究者の方々による理知的なイェイツ詩のご論考は素晴らしく、改めて研究者としての自分の未熟さを痛感せざるを得なかった。先輩方の卓越したご研究に身近に触れることができたのは必ず将来の自分の研究に生きてくるだろう、と確信している。(山内正太郎) 若手のイェイツ研究者の今後の活躍を祈ります。

3. スライゴの Yeats Society の財政危機への本学会の対応

スライゴの Yeats Society への寄付について昨年、Yeats Society Sligo より、コロナ禍による財政危機のため、8月までに100,000ユーロ必要との寄付を求める緊急アピールがございました。Yeats Society Sligo の主たる事業である Yeats Summer School 存続支援の意味もこめまして、日本イェイツ協会としても、理事会の承認をへて500ユーロ(日本円で67,424円)を寄付させていただきました。ここに報告いたします(会長 佐藤容子)。

★本学会も決して裕福ではございませんが、Yeats Society のためにささやかな寄付ができたのも会員の皆様のおかげです。

4. 訃報

羽矢謙一氏が2021年10月6日に永眠されました。先生は本協会の会長として活躍されたのみならず、別の時期には日本ロレンス協会の会長も務められました。この両作家の研究に加えて、『ディラン・トマス全詩集』も共訳されています。また、いわゆる「チャタレー裁判」で伊藤整らが敗訴し、削除版のままになっていた『チャタレー卿夫人の恋人』の完訳を1973年に刊行されたことも大きな功績です。かなりの御高齢になるまで大会に参加されていたことも忘れられません。御冥福を心よりお祈り申し上げます。(浅井雅志)

平田康氏が2021年8月25日老衰のためご逝去されました。享年91歳。観ること、聴きとることに優れ、これらもまたアートであることを体現しておられました。この力をもって、日本イェイツ協会のような学協会のみならず、市井の文化活動、何より神戸労演を長く支えてこられました。ご著書として残された三種三様の『観客術』は続く世代への類い稀な贈り物です。できれば、もう一度お会いして言葉を交わしたかった。ご冥福をお祈り申し上げます。(谷川冬二)

及川和夫氏が2021年11月8日にご逝去されました。及川氏はイエイツを中心にしたアイルランド詩、またロマン派詩の研究を積極的に行ってこられ、2018年には『アイルランド詩とナショナル・アイデンティティ: The Harp & Green』を上梓されました。アイルランド音楽にも造詣が深く、ご自身も様々な楽器の名プレーヤーでした。次の著作の計画半ばの63歳という若さで逝ってしまわれたことが残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。(三神弘子)

5. その他

- 2021年度もコロナ禍で対面学会が開催できず、直接お目にかかることができなかつたにもかかわらず、新入会のお申し込みがあり、学生会員の方二名、一般会員の方二名を新たにお迎えいたしました。さらに一度退会された方のご復帰もあり、心より感謝申し上げます。
- 2020年度は学会が開催できなかったため、『イエイツ研究』に学会報告が掲載できず、学会誌として成立するのかが憂慮されておりました。しかしながら編集委員会と委員長(谷川冬二先生)のご努力により特集を組むことができ、また、山崎弘行先生の論文を掲載させていただくこともできました。充実した仕上がりになっております。ぜひ一読ください。
- 出張移動も躊躇され、会議、授業以外は籠りがちな日々、会員によるご著書を手取ることもあり、その質の高さに改めて感銘を受けることにもなりました。近年の単著のご出版物としては、坂内太先生のご翻訳による『アイルランドの創出』(2018)(原著デクラン・カイバード)、杉山寿美子先生の『祖国と詩: W・B・イエイツ』(2019)、榎木伸明先生の『ダブリンからダブリンへ』(2022)などがあります。

出版のご報告などお待ちしております。

☆イエイツ協会のホームページの「お知らせ」の充実を目指しています。「お知らせ」への掲載や会員へのメール通知にふさわしい情報など、事務局にメールでお寄せください。

ウェブ委員の山内先生よりメッセージ: 毎月平均1・2回をめぐりにお知らせ欄を更新することを心がけている。SNS上で情報を入手し、これはシェアせねばならない、と直感的に思ったものを欄には載せている。文学や研究会のことはもちろん、過去には個人的な付き合いのある演劇人の方によるイエイツ戯曲上演のお知らせを掲載した。今はウィルス禍で様々なことが滞っているが、興味深い情報があればシェアしたいので、是非とも更新を楽しみにして頂きたい。

☆International Yeats Society の年次大会が2022年の10月14日から16日まで韓国のソウルで開催されます。入会、参加、発表を検討される方はURLの最新情報にご注意ください。

<https://internationalyeatssociety.org/>

1) dates: October 14 (Friday)-16 (Sunday).

2) venue: in Seoul, at Dongguk University.

6. 会費納入のお願い

2021年度会費納入(一般7,000円、学生3,000円)をまだ済まされていない方は納入をお願いいたします。協会は、会員の皆様方の会費で運営されております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

すでに会費をお支払いただきました皆様にはお気遣いに深く感謝いたします。

今回、2018年度からの会費納入状況のお知らせと合わせて、新年度(2022年度)の会費納入のお願いをさせていただいております。ご確認の上、ご不明な点などございましたらお問い合わせください。

*2021年に2020年度分をお振込みになられた方は、2021年分が未納になっておりますのでご注意ください。

振込先: ゆうちょ銀行

*ゆうちょ口座からお振込

総合口座 ニホンイエイツキョウカイ

口座記号 10100

口座番号 51712871

*他の金融機関からお振込

普通預金: ニホンイエイツキョウカイ

店名: 〇一八 (ゼロイチハチ、セ〜で検索)

店番: 018

口座番号: 5171287

(振込できない場合は51712871)



<日本イエイツ協会は、日本学術会議協力団体の登録団体です>

*****The Yeats Society of Japan*****

日本イエイツ協会事務局

〒606-8051 京都市左京区吉田二本松町

京都大学人間・環境学研究所

池田寛子研究室内

Email: ikeda.hiroko.2v@kyoto-u.ac.jp

